

# 知床の熱い想いをありがとう!

# 北の自然号外

## 署名総数 一四九、一三六名

全国から寄せられた署名は五月一日現在で一四九、一三六名に達しました。

三月十日、環境庁に七万人分を、翌十一日に林野庁の業務部長に七万五千三百人分を手渡しました。国会開会中のため大臣にはお会いできませんでしたが、各々の責任者に「強行伐採はせず、十分時間をかけた生態系調査を行なって下さい」「知床国立公園の地種区分を特別保護地区・第一種に格上げして下さい」と要請しました。

### 知床募金三、九九一、八七二円

### 知床募金にお寄せくださった皆様へ

### ありがとうございます

去年九月より寄せられた「知床募金」は三、九九一、八七二円になりました。道連合受付分について会計報告いたします。

主な使用は九月一日から十月二十三日まで現地ウトロでの阻止行動・キャンプ隊の経費です。キャンプ場・農業会館使用料の他、食費(主食のみ)、通信費、テント等破損代などです。

阻止行動費にはシマフクロウの巣箱三ヶも含まれています。巣箱は現在知床自然保護協会に保管されています。近いうちに活用します。人件費については、知床問題が活発化した九月から道連合の専従者一名ではとても対応できず、のべ三名の専従・アルバイトを頼みました。一カ月六万円で朝九時から夜十二時まで。会社をやめたばかりの仲間、ミニコミ誌の専従の方には二カ月ピンチヒッターとして事務所につめてもらいました。特に九月・十月上旬はベニツク状態で一日中二台の電話は鳴りどおし。トイレにも行けないほど

四月十四日午前十時、樹齢三百年のミズナラ・セン・イチイ・トドマツがバリッバリッという断末魔の悲鳴を残して倒れていきました。全国から寄せられた署名・ハンカチ・そして現地に集まった人々・地元斜里町民の声を裏切るかのよう。どれほど多くの人々がこの瞬間を恐れていたことでしょうか。数千年の流れの中で育まれた知床の自然林・日本の国立公園はどうなるのでしょうか。この時は破たんをきたした国有林野行政の末期であり、活性化は林野庁自らに必要なのです。切

「知床問題」のこれまでの議論は「森林の活性化」「希少動物の保護」に集中されていまいかと思えます。森林が活性化されるか否か、シマフクロウがいないか論議の外に「知床」の本質があります。今後は(a)自然林と人工林の違いと位置付け、(b)国立公園の目的と現状、(c)森林の機能と林野庁の独立採算制(特別会計制度)の廃止など全国共通の

課題を国民的レベルで話し合い行動する時にきています。知床の自然林を二度とこれ以上切らせないために。来年度伐採予定地(国道三三四号線から東側)は人手の入りづらい自然林が残されています。チェーンソーを入れさせないためには一層の努力と世論の盛り上がりが必要で、今後ともご支援をお願いします。

さらに私どもの力不足のため伐採強行という事態を生み出したことを深くお詫びいたします。

### 知床募金会計報告(道連合受付分)

1987年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
細正憲氏寄付	1,000,000		事務消費費	88,339	コピー代含
知床募金	2,674,072		通信・運搬費	363,692	切手・電話代
知床自然保護協会から	300,000		交通・旅費	478,110	東京・大阪・道内
絵ハガキ	17,800		人件費	1,160,000	専従2(9-2月)、アルバイト1名
合計	3,991,872		印刷費	324,400	署名・資料集他
			会議費	34,900	
			図書資料費	48,240	新聞代・専門書
			知床キャンプ費	781,044	食費・施設使用料他
			阻止行動費	284,974	トランシーバー・レンタル料・菓箱他
			東京行動費	87,620	旅費・車代他
			備品	170,000	ワープロ
			絵ハガキ代	40,000	
			その他	4,800	
			合計	3,866,179	

収入合計 3,991,872  
支出合計 3,866,179  
差引残額 125,693

全国の皆様のご支援のおかげで今日まで活動を続けることができました。深く感謝いたします。「知床問題」はまだまだ続きます。今後ともご支援のほどお願いいたします。

全国の皆様のご支援のおかげで今日まで活動を続けることができました。深く感謝いたします。「知床問題」はまだまだ続きます。今後ともご支援のほどお願いいたします。



これが国立公園(伐採された後の状態)

## 切られてしまいました でも「知床」は続きます

「知床問題」のこれまでの議論は「森林の活性化」「希少動物の保護」に集中されていまいかと思えます。森林が活性化されるか否か、シマフクロウがいないか論議の外に「知床」の本質があります。今後は(a)自然林と人工林の違いと位置付け、(b)国立公園の目的と現状、(c)森林の機能と林野庁の独立採算制(特別会計制度)の廃止など全国共通の課題を国民的レベルで話し合い行動する時にきています。知床の自然林を二度とこれ以上切らせないために。来年度伐採予定地(国道三三四号線から東側)は人手の入りづらい自然林が残されています。チェーンソーを入れさせないためには一層の努力と世論の盛り上がりが必要で、今後ともご支援をお願いします。

### 力を貸してください! 連合の賛助会員になりませんか

「緑豊かな北海道」といわれていますが知床国立公園内伐採問題、大規模リゾート開発等北海道の緑は狙われ続けています。自然と人間の共生をめざしながら少しでも良好な自然環境を次代に伝えるためにあなたの力を貸してください。賛助会員は「緑の下の力持ち」さんです。自然の好きな方、自然保護に関心のある方、どなたでも自由に参加できます。義務はありませんが、年会費として年間1口3,000円(何口でもかまいません)を出資してください。賛助会員になると

自然保護の情報誌「北の自然」が隔月送付されます。催し・企画の他販売物の案内がされます。会員の方には自然保護パッチをさしあげます。賛助会員：1口 3,000円(年会費4月から翌3月まで) 送金方法：現金書留 又は 郵便振替 小樽1-4071 その他、「知床募金」郵便振替 小樽6-18005 「立木買い取り運動」は1口 10,000円 送金は現金書留にてお願いいたします。

### 「切られる」絵ハガキ

伐採予定木の写真と解説付の絵ハガキです。多くの方々に知床問題を伝えるため活用してください。1枚、70円。ご希望の方は事務局まで。さらに、「知床の森合唱組曲」10曲の楽譜(コピー)、知床エイドテーマ曲「TAKING MY HEART」(夢を信じて)のカセットテープ 500円(送料170円)もありますので合わせてどうぞ。集会など仲間が集う時のバックミュージックにも最適です。

### 「知床を考える」出版

本多勝一氏編集の「知床を考える」が晩聲社から出版されました。知床国立公園内伐採計画の経過・問題など今まで新聞・雑誌に載せられた原稿を中心に、新たな原稿を加え編集されています。頭の中を整理して「知床」を取り組み続けるためには是非一冊お手元に! ご希望の方は事務局まで一冊2,000円と送料270円を同封の上、お申し込み下さい。郵便振替口座 小樽1-4071

### 斜里町民の決断!

#### 午来町長おめでとう

#### 「知床守ります」高らか宣言書

#### 100平方メートルに全会員配布

午来斜里町政が初仕事、



午来斜里町長

【斜里】知床国有林の伐採が先月強行され、現地の網走管内斜里町が行っている「知床百平方メートル運動」参加者の間に動揺がみられたことに対し、町ではこのほど「ナショナル・トラスト運動を支援し、知床を守り抜く」という内容とした「経過報告」を手紙で会員に送った。

町長おめでとう。百平方メートル運動は強い反対の態度を示し、「夢を踏みとどめる」といった抗議の言葉を、伐採反対を表明している町民に対して事情説明を求め、電話や手紙が昨年から数多く寄せられていた。先月、伐採が強行されたのは、運動参加者の返意を求めていくことを表明した

## 知床の一年・伐採までの経過

### 自然保護の動き

61年7月20日 知床国立公園国有林伐採計画予定地現地調査。  
7月22日 「知床国立公園国有林伐採計画の廃止を求める要望書」を関係機関へ送付。  
8月16日 知床原生林を守るシンポジウム開催。  
8月8日 北見営林支局と話し合い。(斜里町)  
8月30日 「知床に集ってください」全国に呼びかける。  
8月31日 伐採反対ベースキャンプ設置。  
9月1日 北見営林支局と話し合い。(北見) 条件案だされる。  
9月8日 北見営林支局と話し合い。(北見) 第2案だされる。  
9月9日 「アイヌ精神による知床立木伐採阻止運動の会」によるカムイノミ。  
9月10日～21日 国会議員・関係省庁・報道関係者と面談。  
9月13日 「知床半島森林帯の天然記念物地域仮指導を求める要望書」を知事と教育委員会に提出。  
9月17日 北見営林支局と話し合い。10分で終わり話し合いにならない。  
9月21日 知床自然保護協会が船津斜里町長の要望書を拒否。  
9月24日 斜里町議会に計画の中止を求める陳情書を提出。  
10月4日～5日 「知床国有林の伐採を許さない関東地区・関西地区大会」  
10月22日 ベースキャンプ撤収、62年1月18日 北見営林支局調査に対するアピール。  
1月20日 「知床国立公園内国有林伐採計画に係る調査についての質問状」を調査員に送付。  
2月9日 北海道知事立候補予定者に公開質問状送付。  
2月27日～28日 第1回知床現地ツアー。  
3月10日 環境庁に知床署名・7万名分を手渡す。  
3月11日 森野庁に知床署名・7万580名分を手渡す。  
3月13日～14日 第2回知床現地ツアー。  
3月15日 「北見営林支局調査」の調査員に対する公開質問状の回答を受理。  
3月16日 知事立候補予定者への公開質問状に対する回答出そろふ。  
4月11日 「もう一度知床に集って」全国に呼びかける。  
4月14日 現地でチブコ・抗議行動をする。伐採強行に対する抗議声明。  
4月16日 「知床国立公園立木買い取り運動」開始。  
4月16日～17日 知床伐採跡地調査。  
5月2日～5日 知床伐採跡地調査。

### 林野庁の動き

56年4月。北見営林支局「網走地域施業計画第四次計画」約2万7千本の伐採計画を立てた。  
57年9月 地元自然保護団体と斜里町当局の反対で計画を凍結。  
61年4月 北見営林支局「第5次計画」発表、対象木約1万本に縮少。林道工事はやめヘリコプター集材を導入。  
61年10月17日 農水産大臣が62年2月まで伐採を凍結して動物調査を実施するとして、一時休戦状態となった。  
61年12月17日 調査団決定。  
62年1月12日～14日 第一回調査開始し2月終了であったが、調査団の要請で3月中旬まで延期調査となった。  
3月4日 林野庁は年度内伐採を断念。  
3月8日～13日 第4回調査(最終調査)  
3月16日 道新論壇で北見営林局長、極めて弱度の伐採、資源保存林も設定、木材は生活に不可欠「保存より保全」を知床の森として扱ってすることを表明。  
3月20日 年度内伐採はない。(北見営林支局)  
3月30日 知床調査報告書提出(調査団北見にて)  
4月6日 買い取りには応じぬ「立木は売らぬ」発表。  
4月7日 知床択伐改めて宣言(林野庁)  
4月13日 午後知事選終了をまって4月14日の伐採着手を公表。  
4月14日 予定の844本を530本に縮少伐採着手。伐採班午前10時05分にチェーンソーがうなり倒れる巨木のごう音が山にこだました。  
4月23日 素伐本数600本の搬出を終了。  
63年以降の伐採予定地調査団(道森林技術センター前回メンバー)現地入。  
4月24日 調査団早朝から岩尾別川流域の調査に着手。(この調査は来年3月まで行われる)

### その他

61年2月 横路知事伐採計画に同意  
61年3月 環境庁伐採計画に同意  
61年8月18日 網走支庁管内の木材業者らが択伐推進を求めるアピール。  
9月20日 船津斜里町長、伐採承認の調停案提示。  
9月21日 騒然とした中で知床100平方メートル運動植樹祭。  
10月1日 共産党国会議員団、知床現地視察。  
10月9日 稲村環境庁長官、加藤農水相に伐採凍結申し入れ。  
10月19日～20日 社会党・久保田議員知床現地視察。  
10月22日 稲村環境庁長官、伐採予定地を視察。  
11月13日 公明党国会議員団、現地視察。  
2月21日 「知床を考える釧路市民のつどい」開催。  
4月13日 地元ウトロで伐採反対集会。



### 切られた木々を 無駄にしないために

六百本ちかい伐採木、伐採支障木(伐採時にじゃまになる木)を含めると二・九倍の木々が切られました。私たちはこの木々の生命を無駄にしまいと四月十六日から継続的に調査をしています。

伐採木の実数、伐採木周辺の状況、伐採採跡地林床植生、伐採によって生じた孔状面積、伐採跡地の後継樹の有無、放置木・支障木の状況などが調査項目です。北大や帯広畜産大学の学生・社会人・研究者の混成調査団です。七月下旬には写真・図面を含めたわかりやすい報告書をつくりたい。

さらに、「知床問題」を考える上で整理しやすいうちに、林野庁の主張も含めたハンドブック「QアンドA」を六月中旬につくりたい。ご希望の方はご連絡ください。話しは前後します

伐採にとまらない二十三日の本のトドマツ(胸高直径33センチ)・イタヤなどの広葉樹が切られたり倒されたりしています。もちろん若木も多いため木は傷をつけたり「私たちが倒すといったら一〇秒以内の誤差で倒す」とまで言い切り、自らの技術の高さを誇ってしましました。ささやかな択伐であって大規模なものではないことを強調したものです。ところが調べてみると大違い。伐採跡地には対象木一本に對し平均二・九本の調査をくまなく続ける対し平均二・九本。明らかに多すぎです。

切られた木々の断末魔の叫びをかた時も忘れることなく胸に刻みつけ、ねばり強い保護運動を続けたいものです。そのことは物質や利便性を追い続ける日本人の日常を反省することであり、少しでも豊かな自然環境を次代に伝えることでもあります。知床の切られた木々は人間の傲慢さを訴えているともいえます。

### これからの活動は

伐採跡地・来年度伐採予定地調査  
七月四日 ウトロの開設キャンプ場集  
五日 知床横断道路定期事後調査  
六・七日 伐採跡地調査  
八・十日 来年度伐採予定地調査  
参加される方は六月二十日までに事務局にお申し込み下さい。全日程テント生活を基本にしています。登山の服装・装備をご用意ください。

○森を見るツアーNo.1  
九月十三日～十六日  
参加費・五万円(札幌出発、交通・宿泊・食事含)  
定員・五〇名  
コース  
大雪山国立公園・知床国立公園の自然破壊の現情と残されている自然林を見学します。

○原生林シンポジウム  
九月下旬・札幌市にて  
沖繩ヤンバル・白神ブナ・知床と全国の自然林をつなぎ破壊の現状と保護を考えるシンポジウムです。各地にねばり強い活動を続けておられる方々をまじえ「日本の自然林」を展望します。

以上その他、十一月中旬には東京・大阪で「賛助会員の募り」を開きます。知床問題の他北海道の自然を紹介致します。詳しい日時は会報「北の自然」でお知らせいたします。  
来年度伐採を止めるため皆さんの知恵を貸してください。尚署名活動は続けますのでご協力ください。



# 全国から寄せられた木々への願い

## ハンカチメッセージを知床に届けました

懸念されていた知床国有林の伐採は、まさに不意をつかれた形で、反対の声も無視されたまま強行された。折しも知事、道議会議員選挙を以ての発表と決行という暴挙。報道関係者、一般及び我々反対派の誰もが忙しい中、寝耳に水の出来事である。不意打ちの卑劣なやり口に憤りを感じる暇もないまま、田中事務局長はじめ、連合関係者その他が十一日札幌へ赴いた。私も現地へ赴くこの目で見て来たものを報告したい。

この許されざるXデーを私が知ったのは、十一日の期刊であった。土曜日とはいえず、事が手につかない。自然保護センターに一報し、現地へ急行する車に同乗させてもらえようと思った。山歩



ハンカチを巻きつける

を知らず。寒い。知床はまだ遅い春が訪れて間もないのだ。去りかけた流水が再び戻ってきたという若者たちだった。頭の下がる思いである。十二日の夜遅くに札幌を出たものの、真冬のごとき風雪。雪道に慣れていない彼等は、道産子ドライバーですら手こずる雪道に悪戦苦闘。十三日の果朝旭川のガソリンスタンドでの彼等の表情はさすがに疲労の色が隠せなかったが、疲れの他にきびしいものが浮かんでいた。午後には雪のない道東を順調に進み、「知床自然保護協会」会長石井政之氏宅に立ち寄り、現地の情報を得る。私がウトロのはずれに設けられたベースキャンプに到着したのは、六時を過ぎてからだった。流木を燃やした焚き火が集まっている人々

面はアイスバーンとなっていて、体重のかげぐあいで十数歩ごとに膝上まで埋まる。日にたたる。まだ小さな木々が整然と植えられた林地の左手には、百平米運動地が見える。林地のはずれに着くと、立入禁止の表示と共に、林を囲むようにしてテープが張られていて、皆無言でそれを通りぬける。

夜が明けはじめ、ベイスキャンピングから歩くこと二時間余り、ショッキング・ピンクのテープが巻かれた木々が見えた。たいへんな大さである。しかし見ると、国から送られてきたハンカチメッセージを木に巻きつける作業に入らなければならぬ。ところが予め何枚かをつなぎ合わせてきたものが、いざ幹に巻きつけてみると足りない。結んだりほぐしたり意外と手間がかかる。その間、知床の森を、木々を愛する人々の熱い声が自由に飛びこんでくる。実際チェーンを持って作業にあたる人の瞬間をよぎる。機動隊まで出て切らねばならない木なのか。そして自分が力づくで木からはぎとられるときの様子等々。いや、何のためにやってきたのだ？ 迷うことなどないではないか。自分に喝をいれなければならぬのが情けない。

十四日午前、有志の者が焚き火の周りに集合。寝袋のなかから私は、うとうととしていただけすぎなかった。三時三十分、十五人の男女は、深夜も警戒されている林道を進む。道なき斜面を登る。表



の刃など入れてはならない御神木ばかりなのである。私たちの作業は順調にすすんだ。沢を越えた対岸の林にも、無機的な色彩のテープが巻かれた木々がいくつも見える。この木の選択はどのような基準からされるのであろうか。あんな場所では、ずいぶん狭い範囲で切られる木々が並んでいる。光を入れることで森林の活性化を図るとの営林署側の説明だが、これで隙間だらけになってしまふ。そう感じる場所がずいぶんあった。

いつしかハンカチもなくなり、しめなわも底についた。残念なのは、人員と時間が足りないことだ。かなり急な斜面ではあるが上の方に、何本もイチイの木にテープが巻かれていて、その確認しながら、何もできずに戻らねばならなかった。最初にテープの巻かれた木々を確認した地点で、木に抱きつく「チプロ運動」に入るためである。営林署の職員が、見える。チェーンソーを持った男たちはすでにこちらへ向かっている時間だ。背後でクマゲラの声がかたと思ふと、我々のいる近くの木へ飛んできた。彼等の森が今切られようとしている。

「切らないでチプロ運動もつと人がいたら...」

時刻は九時をまわったところであった。それがテープの巻かれた木々の根元は、いわゆる根開きの状態になっていて、足場はあまりよくない。報道関係者のヘリコプターの音が疲れた神経を逆撫でする。十分二十分と経つうちに体が冷えてくる。さすがに何もせずじっとしているというのにはこたえる。そのうち、眼下の踏み固められた道を、ヘルメットと作業服に身を固め、チェーンソーを持った二十人ほどが黙々と山の中へ進んで行った。我々を見上げる者、無視する者。体が二つあるなら降りて行って彼等をも止めたい。しかし、それから間もなくであった。我々に向かってくる立ち退きを告げる拡声器の音が冷たく響いた。白いヘルメットが幾つも見え隠れする。作業エリアを示すテープが、我々が木々に抱きついていて一角を取り囲むようになっている。張りめぐらされている

性化を図るとの営林署側の説明だが、これで隙間だらけになってしまふ。そう感じる場所がずいぶんあった。

いつしかハンカチもなくなり、しめなわも底についた。残念なのは、人員と時間が足りないことだ。かなり急な斜面ではあるが上の方に、何本もイチイの木にテープが巻かれていて、その確認しながら、何もできずに戻らねばならなかった。最初にテープの巻かれた木々を確認した地点で、木に抱きつく「チプロ運動」に入るためである。営林署の職員が、見える。チェーンソーを持った男たちはすでにこちらへ向かっている時間だ。背後でクマゲラの声がかたと思ふと、我々のいる近くの木へ飛んできた。彼等の森が今切られようとしている。

ころ、営林支局長とか名乗る(正確なところを忘れたが)肩書きのついた地位にある人が、二人一人に対して、改めて立ち退きの勧告を告げて回った。私は何も言わずにらみ返すだけである。今さら何を言えよう。こうしての間も一本、また一本と切られているのだ。感情的になることはいくらでもできる。しかし解決にはならない。

とにかく体の芯まで冷える。足の感覚はない。目を閉じていると、夢ともつかない映像が浮かぶ。ふとバランスを崩しそうになり、我を戻す。そんなことを何度も繰り返した。近くの木にアカゲラの類だろうか、くちばしでさえずっている。シマ

ブクロウのためとか「人類の宝としての自然林」といった、知床を守るための様々な理由ともかく、今はこの小さな森の住人のために木を切らせたくない、そんな思いだけが頭に去来する。

一体機動隊などこいつに待機しているのかと思えるほど静かだ。すでに伐採が始まっているものの、ここで中止という事態でなんとか收拾されないものかというかすかな期待も顔を出す。日も高く昇り、十一時もだいぶ過ぎたころ、我々のいる木々を数ヘクタールにわたって囲んでいたテープが振り払われた。営林署の本心は？ 今日このところは切らないというだけのことか？

十二時を過ぎても、チェーンソーの遠い音はやまない。彼等には昼休みはないのだからか、などと、よけいな考えが浮かぶ。私はさほど空腹ではなかったものの、寒は耐えがたかった。やがてチェーンソーの音もやみ、静かになった。十二時三十分ごろ、情報が入った。夕刻まで長引くかと思われたチプロ運動は、その時点で中断された。営林署は、反対派との摩擦を極力避けるため、十四日の伐採分は他の地点でまかない、反対派の入った林はその日は切らないとのこと。また、切られた木は我々がハンカチやし

めなわを結びつけることができなかったものばかりを優先して選択されたこと、逆に報道関係者を集めた伐採地では、わざわざハンカチやしめなわをはずすところを見せながらの伐採作業だったとか。次々と聞かされる事実を加え、とうとう伐採が強行されたという無念さが重なり、悔しき、虚しき、怒りといった感情が胸の内複雑にうずまいた。

我々が抱きついた木々も、十五日にはいとも簡単に切られてしまっているだけに、立ち去りがたかった。「みんなよくやった」「やるだけのことはやった」と誰かが言っていた。そのとおりのことだ。しかし、なんとかできなかつたのか。ベイスキャンピングで焚き火にあたりながら(帰りの途中私は沢の中にひっくり返った)聞く流水の海からのつぶやきは、なんと虚ろだった。

今回の伐採強行の経緯は、新聞やTVを通じてご存じのことと思う。実際切られたものは、多方面からの削減や、林野庁からの伐採凍結地域の提示などの形で確かに何らかの力となっている。まだ六十一年度分が終わったにすぎない。もっと多くの人の力が必要である。実際行動して、この点を痛感した。

(吹田則明)